

ふくしま心のケアセンター
地域アルコール対応力強化事業
(アルコール・プロジェクト)
令和元年度 報告書

一般社団法人福島県精神保健福祉協会

ふくしま心のケアセンター

目 次

1. アルコール・プロジェクトの概要.....	79
1) 地域アルコール対応力強化事業の目的	
2) アルコール・プロジェクトのメンバー	
2. 専門職研修会の開催	80
1) 関係者向け研修会（ベーシックコース）	
2) 関係者向け研修会（アドバンスコース）	
3) TV 会議システムを用いた研修会	
3. 住民に向けた普及啓発等の活動	85
1) こころも身体も元気になるセミナーにおけるブース出展	
2) ふたばワールド2019 in J ヴィレッジにおけるブース出展	
3) 広野町健康まつりににおけるブース出展	
4) アルコール関連問題啓発週間事業「飲酒運転撲滅」JR 郡山駅前キャン ペーンへの協力	
5) 福島市保健所アルコール家族教室における講師派遣および協力	
6) 郡山市保健所アルコール家族教室における講師	
7) いわき市アルコール家族教室（カモミールの会）における講師	
8) その他の協力事業	
4. 課題と展望	91

1. アルコール・プロジェクトの概要

ふくしま心のケアセンター「アルコール・プロジェクト」は、福島県より委託された被災者の心のケア事業の一環として「地域アルコール対応力強化事業」を実施するために、平成 26 年 4 月に発足した。活動の概要は以下の通りである。

- ① 専門職のスキルアップを図るための研修会の開催
- ② 被災住民に対する普及・啓発活動の実施
- ③ 被災地において支援活動を行うためのモデル事業の展開

1) 地域アルコール対応力強化事業の目的

東日本大震災及び原子力事故による環境の変化や見通しが立たない避難生活等は、多くの県民に多種多様なストレス症状を引き起こしており、うつ傾向の割合の増加が見られている。また、訪問支援等を行っている支援者からは、飲酒問題が関係する相談や支援の難しさが報告されている。ふくしま心のケアセンターの飲酒問題を症状とする相談件数の経年変化を見ても、平成 25 年度は 284 件、平成 26 年度は 404 件、平成 27 年度は 525 件、平成 28 年度は 787 件と増加傾向にあった。平成 29 年度は 319 件、平成 30 年度は 292 件と減少に転じているが、長期化した飲酒問題が関係するケース支援には困難を伴っている。

このような背景から、地域の中でアルコール関連問題への取り組みを強化することを目的に、ふくしま心のケアセンター内にプロジェクトチームを設置し活動を行っている。福島県立医科大学と連携した、地域支援者の人材育成を通して、地域のアルコール関連問題への対応力強化を図ると共に、被災者への支援及び普及啓発を展開する。

2) アルコール・プロジェクトのメンバー

◎チームリーダー ○サブリーダー ※オブザーバー

前田正治（ふくしま心のケアセンター副所長・福島県立医科大学災害こころの医学講座 主任教授）

◎大槻真実（ふくしま心のケアセンター基幹センター 専門員）～令和元年 9 月

◎菅野寿洋（ふくしま心のケアセンターいわき方部センター 主任専門員）令和元年 10 月～

羽田雄祐（ふくしま心のケアセンター基幹センター 主任専門員）

○小野寺悦子（ふくしま心のケアセンター基幹センター 専門員）令和元年 10 月～

松田聡一郎（ふくしま心のケアセンター県北方部センター 方部課長）

佐竹美紀（ふくしま心のケアセンター県中・県南方部センター 専門員）

木原英里子（ふくしま心のケアセンターふたば出張所 専門員）

米倉一磨（ふくしま心のケアセンター相馬方部センター センター長）

※田崎みずほ（福島県保健福祉部障がい福祉課 保健技師）

※佐藤しのぶ（福島県精神保健福祉センター 主任保健技師）～令和元年 9 月

※三瓶真美（福島県精神保健福祉センター 保健技師）令和元年 10 月～

※大島洋和（公益財団法人 星総合病院 星ヶ丘病院・ふくしま心のケアセンター顧問）

【総務担当】相山未希子（ふくしま心のケアセンター基幹センター 総務財務課長）

2. 専門職研修会の開催

1) 関係者向け研修会（ベーシックコース）

目 的：住民の関心が高い“健康”や“生活習慣病”とアルコールの関連性に視点を置き、
保健指導の一環としての介入方法の基本を学ぶ。また、事例を通して具体的な節酒
支援のスキルを身につけることを目的とする。

日 時：令和元年 9 月 10 日（火） 13：30～16：30

場 所：郡山市音楽・文化交流館（ミュージカルがくと館） 大ホール

対 象：被災者支援に携わる支援者、医療・保健・福祉従事者

参加者：53 名（スタッフ含）

内 容：講演「10 分で出来る！保健指導としての節酒支援」

講師 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター
福田 貴博 先生

主 催：（一社）福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター

共 催：福島県

後 援：郡山市、富岡町、公立大学法人福島県立医科大学



2) 関係者向け研修会（アドバンスコース）

目 的：住民の関心が高い“健康”や“生活習慣病”とアルコールの関連性に視点を置き、保健指導の一環としての介入方法の基本を学ぶ。また、事例を通して具体的な節酒支援のスキルを身につけることを目的とする。

日 時：令和元年 9 月 11 日（水） 10：30～14：30

場 所：富岡町文化交流センター学びの森 第 1 会議室、第 2 会議室

対 象：被災者支援に携わる支援者、医療・保健・福祉従事者

参加者：37 名（スタッフ含）

内 容：講演「節酒指導応用編～事例検討を中心に～」

講師 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター
福田 貴博 先生

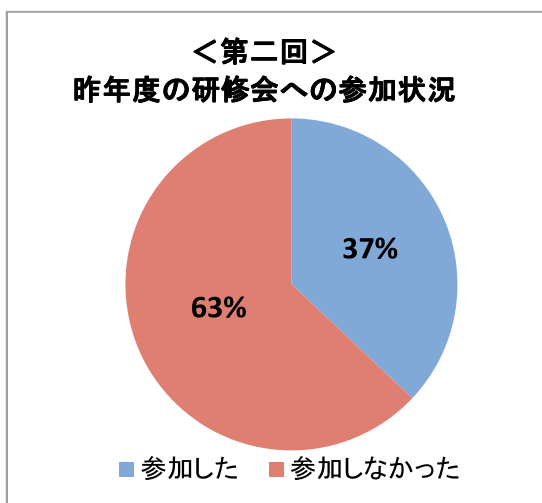
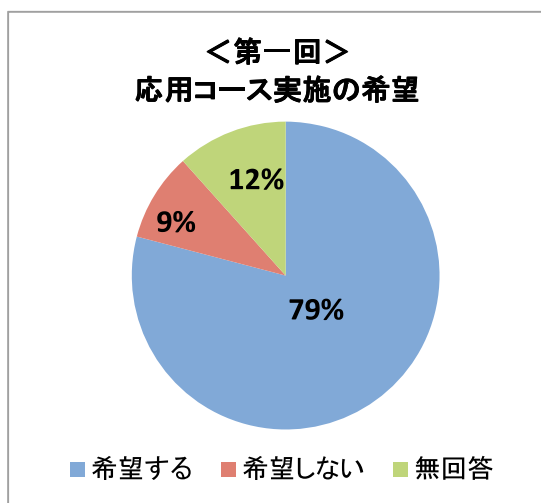
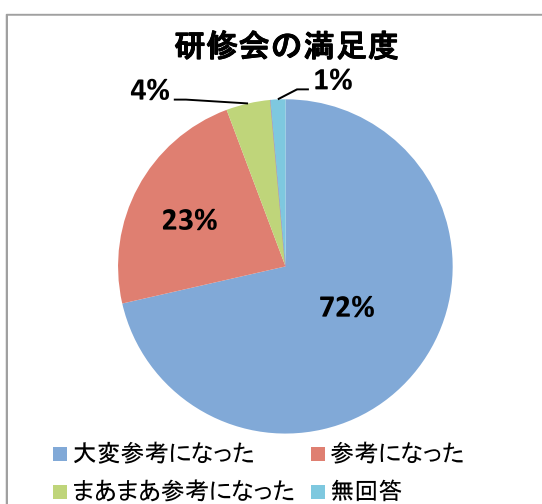
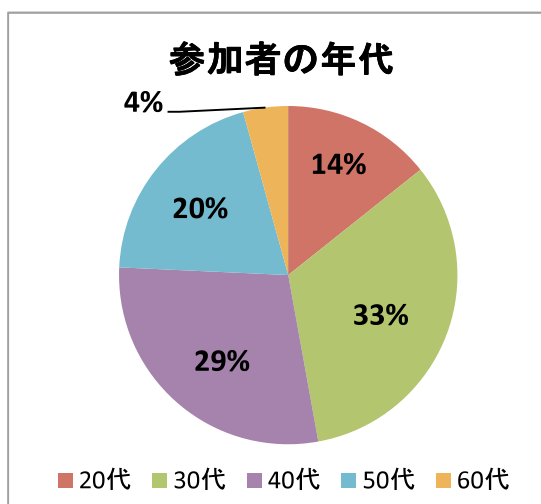
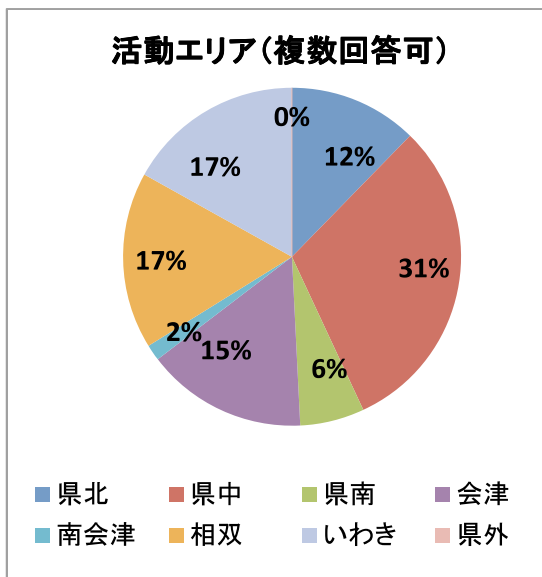
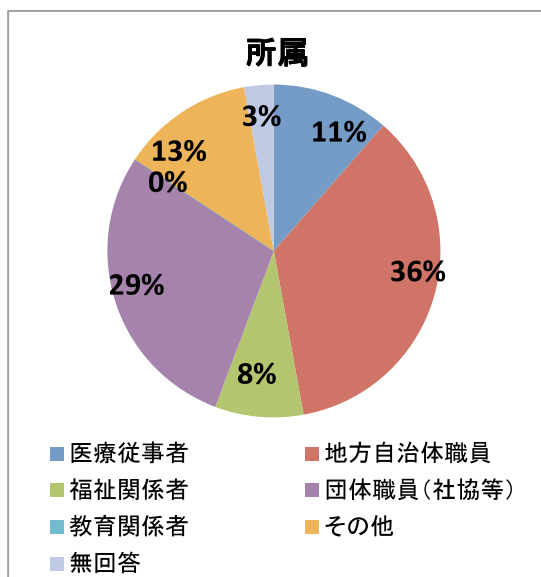
主 催：（一社）福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター

共 催：福島県

後 援：郡山市、富岡町、公立大学法人福島県立医科大学



■ 第一回及び第二回関係者向け研修会アンケート結果（回収 70 件／参加者 90 名）



■ 参加者のアルコール関連問題に関する困りごと（アンケートより一部抜粋）

- ・ アルコール関連の問題は長期的、継続的に支援が重要ですが、電話相談等で単発に終了してしまうことがあります。
- ・ 家族教室の周知は行っていますが、参加者が少ないです。問題や悩みを抱えている方はもっと多いはずですが、本当に必要としている人にまで届いていない等の課題があります。
- ・ 一人暮らしの多量飲酒者で生活状況や健康面を地域で心配されている方が増えています。地域でのかかわり方等が課題となっています。
- ・ 受け皿となる医療機関が十分でないこと、情報が少ないことです。
- ・ アルコール関連問題に関する地域連携のあり方について対応が難しいです。
- ・ 日中、活動の場に出てこないアルコール問題のある男性への支援方法について困っています。
- ・ アルコール依存が高いと思われ、健康面の問題も出はじめている男性への支援です。
- ・ 二次予防の方、メタボで毎年結果が悪くなり、自分でも酒を減らしたいというが、なかなか減らせません。

■ 参加者の感想（アンケートより一部抜粋）

- ・ 「飲酒をやめさせる」のではなく、「節酒する」ことを支援する保健指導のほうが、支援者も対象者もストレスにならず、受け入れてもらいやすいのではないかと感じました。10分という短時間でも対象者と指導内容をしければ効果的な保健指導ができと思いました。
- ・ 現実に即したお話でとても分かりやすく、取り組める内容でした。まず、自分からやってみます。
- ・ 実践で活用できる資料等をいただいたので、健診の結果説明の際に活用してみたいと思います。
- ・ 生活習慣を変えようとするのではなく、本人のできそうなことに寄り添っていくことが大切だと思いました。「ドリンク」の考え方を職場で広めていきます。
- ・ 普段、重度のアルコール依存症の方に介入することが多いのですが、節酒支援しやすい対象をより多くみつけ支援していきたいと思いました。
- ・ 昨年の研修を受けたあと、親族に節酒指導をしました。週6日の飲酒でしたが、今ではイベント飲酒と、週末（金土）のみになりました。「脳が縮む」「寿命が縮む」がすごく響いたようで、今でも「飲むと脳が小さくなる」と言います。わかりやすい資料でとても活用しやすいと思います。

3) TV 会議システムを用いた研修会

目 的：アルコール関連問題に関して、特に早期介入、動機付け面接、節酒による介入方法等の研修を受け、アルコールによる健康障害や依存症の予防に関する効果的な支援方法を学び、アルコール関連問題への地域の対応力強化を図る。

※TV 会議のネットワークは、独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センターを中心に、同久里浜医療センター、同琉球病院、同花巻病院などが参加している。
なお、研修会の進行、およびテーマや講師の選定は、独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センターが行う。

場 所：ふくしま心のケアセンター いわき方部センター

時 間：18：00～19：00

日程	内容	参加者（スタッフ含）※
平成 31 年 4 月 24 日	講義「DASHプログラムについて」 講師 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター 杠 岳文 先生 他	6 名
令和元年 6 月 5 日	講義「A B C Dプログラムについて」 講師 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 真栄里 仁 先生 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター 杠 岳文 先生	5 名
令和元年 7 月 17 日	講義「飲酒による皮膚色素沈着について」 講師 佐賀大学医学部社会医学講座 松本 明子 先生 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター 杠 岳文 先生	2 名

※いわき方部センター会場への参加数。他会場の参加者は含まない

3. 住民に向けた普及啓発等の活動

1) こころも身体も元気になるセミナーにおけるブース出展

南会津アロマまつりにおいて、福島県南会津保健福祉事務所との共催で「こころも身体も元気になるセミナー」を実施した。セミナーの開催に併せて、当センターでは、パンフレット配布とアルコールパッチテストの他に、焼酎・日本酒・空き缶のキットを展示し適正飲酒の普及啓発を行い、多くの方に関心を持っていただくことができた。

日 時：令和元年 9 月 1 日（日） 10：00～15：00

場 所：南会津町御蔵入交流館 健診ホール

対 象：一般住民、関係機関・団体職員等

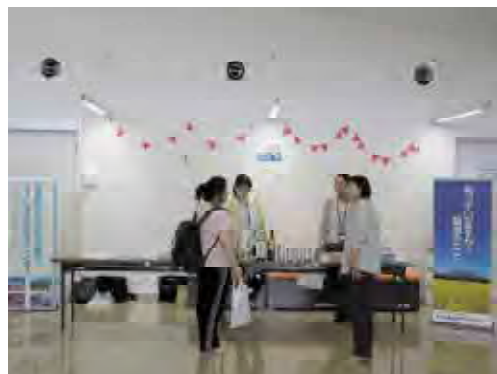
内 容：アルコールパッチテスト 100 名に実施

来場者：総来場者約 200 名

主 催：福島県南会津保健福祉事務所

共 催：（一社）福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター

協 力：（公社）福島県栄養士会会津支部



2) ふたばワールド 2019 in J ヴィレッジにおけるブース出展

「自分のお酒に対しての体質をチェックしながら、心の健康について一緒に考えてみませんか」というテーマで、一般住民に対してお酒と健康に関する普及啓発を実施した。当日はアルコール・プロジェクトのメンバー6名で参加し、運営を行った。

日 時：令和元年 10 月 5 日（土） 10：00～15：00

場 所：ナショナルトレーニングセンター J ヴィレッジ

対 象：一般住民、関係機関・団体職員等

内 容：アルコールパッチテスト 452 名に実施、啓発資材 417 名に配布

来場者：総来場者約 35,200 名

主 催：双葉地方広域市町村圏組合、一般財団法人福島県電源地域振興財団、
広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村



3) 広野町健康まつりににおけるブース出展

ひろの秋祭りの中の広野町健康まつりにおいてブースを出展し、来場者にアルコールパッチテストやパンフレットの配布を行い、適正飲酒の普及啓発を実施した。当日はふたば出張所の職員 3 名で運営を行った。

日 時：令和元年 11 月 2 日（土） 10：00～12：30

場 所：広野町中央体育館

対 象：健康まつりに来場した町民等

内 容：アルコールパッチテスト 104 名に実施

主 催：広野町

4) アルコール関連問題啓発週間事業「飲酒運転撲滅」JR 郡山駅前キャンペーンへの協力

一般住民に向けた飲酒運転やアルコールによる健康への影響など、アルコール問題に関する知識の普及を行い、関心を高めることを目的にキャンペーンを実施した。当日は、スタッフ 19 名（断酒会 16 名、福島県障がい福祉課 1 名、ふくしま心のケアセンター 2 名）が参加した。

日 時：令和元年 11 月 10 日（日） 9：30～12：00

場 所：JR 郡山駅西口駅前広場、ピボット前、西口中央出入口前、エスパル出入り口前

対 象：一般市民

内 容：飲酒運転撲滅のティッシュ 1,000 セット配布

主 催：公益社団法人全日本断酒連盟

後 援：内閣府、厚生労働省、警察庁

協 力：（一社）福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター

5) 福島市保健所アルコール家族教室における講師派遣および協力

場 所：福島市身体障がい者福祉センター腰の浜会館

対 象：アルコール依存症者の家族

日程	内容	参加者数
令和元年 5 月 9 日	・オリエンテーション ・CRAFT とは	4 名
令和元年 6 月 13 日	・暴力への対応	7 名
令和元年 7 月 11 日	・飲酒やギャンブルのきっかけを探す ・教室参加の目標づくり	4 名
令和元年 8 月 8 日	・コミュニケーションを変える①	1 名
令和元年 10 月 10 日	・コミュニケーションを変える②－1	7 名
令和元年 11 月 14 日	・コミュニケーションを変える②－2 ※福島市保健師が講師を担当	6 名
令和 2 年 1 月 9 日	・望ましい行動を増やす	4 名
令和 2 年 2 月 13 日	・イネイブリングをやめる	4 名
令和 2 年 3 月 12 日	新型コロナウイルス感染予防のため中止	—

主 催：福島市保健所

講 師：アルコールプロジェクトメンバー、県北方部センター専門員

6) 郡山市保健所アルコール家族教室における講師

場 所：郡山市保健所

対 象：アルコール依存症者の家族

日程	内容	参加者数
令和元年 5月22日	・オリエンテーション ・CRAFTを用いたプログラムについて	3名
令和元年 6月26日	・どんな問題か明確にしましょう	3名
令和元年 7月24日	・暴力と安全第一とは	2名
令和元年 8月28日	・より良いコミュニケーション①	3名
令和元年 10月30日	・より良いコミュニケーション②	2名
令和元年 11月27日	・上手くいかないことを中止しましょう	2名
令和元年 12月25日	・望ましいことを増やしましょう	3名
令和2年 1月29日	・CRAFTについて ・暴力と安全第一とは	3名
令和2年 2月26日	・家族自身の生活をより良くするために	7名
令和2年 3月25日	・治療を勧めてみましょう ・PIUSなコミュニケーションについて	5名

主 催：郡山市保健所

講 師：アルコールプロジェクトメンバー

7) いわき市アルコール家族教室（カモミールの会）における講師

場 所：いわき市保健所

対 象：アルコール依存症者の家族

日程	内容	参加者数
令和元年 10月11日	・オリエンテーション ・CRAFTを用いたプログラム	7名
令和元年 11月14日	・どんな問題かを明確にしましょう ・相談、交流	7名
令和元年 12月13日	・暴力と安全第一とは ・相談、交流	7名
令和2年 1月16日	・上手くいかないことを中止しましょう ・相談、交流	5名
令和2年 2月14日	・望ましいことを増やしましょう ・相談、交流	5名
令和2年 3月12日	新型コロナウイルス感染予防のため中止	—

主 催：いわき市保健所

講 師：アルコールプロジェクトメンバー、いわき方部センター専門員

8) その他の協力事業

① 郡山市職員向け研修会「家族トレーニング（CRAFT）勉強会」への講師派遣

日 時：令和元年6月26日（水） 18：00～20：00

場 所：郡山市保健所 会議室

対 象：郡山市職員

参加者：19名

内 容：CRAFTの基本知識に関する講義、アルコール家族教室における集団CRAFTの内容に関する講義、質疑応答などを実施した。

② 福島県精神保健福祉センター主催 令和元年度アディクション関連問題に携わるスタッフのためのミーティングへの参加

日 時：令和元年6月6日（木） 15：30～17：00

場 所：福島県保健衛生合同庁舎 5階 デイルーム

対 象：アディクション関連問題に携わるスタッフ等

参加者：34名

内 容：福島県の薬物乱用の現状、ギャンブル障がい回復トレーニングプログラムについて情報提供あり、その後ゲーム依存事例の対応について紹介された。出席者間の連携を図るためミーティングが行われた。

日 時：令和元年 8 月 1 日（木） 15：30～17：00

場 所：福島県保健衛生合同庁舎 5 階 デイルーム

対 象：アディクション関連問題に携わるスタッフ等

参加者：46 名

内 容：情報提供として、ゲーム依存への対応の基本と最近のゲーム事情について報告があった。また薬物・アルコール・ギャンブル依存症の家族から「家族が欲しかった支援」について体験談が語られた。

日 時：令和元年 10 月 3 日（木） 13：00～16：00

場 所：福島県保健衛生合同庁舎 2 階 大会議室

対 象：アディクション関連問題に携わるスタッフ等

参加者：58 名

内 容：情報提供として、福島県の薬物乱用の現状について報告があった。その後、磐梯ダルクの施設紹介と課題、入所者の体験談が語られた。また、薬物依存症関連問題の相談対応についての講義があった。

日 時：令和元年 12 月 5 日（木） 13：30～16：10

場 所：福島県保護観察所 福島自立更生促進センター

対 象：アディクション関連問題に携わるスタッフ等

参加者：36 名

内 容：福島自立更生促進センターの活動及び施設見学と事例検討があった。事例検討では、刑期が終了し就労可能なアルコール依存症のケースの生活支援のあり方や支援機関についての意見交換が積極的になされた。

日 時：令和 2 年 2 月 6 日（木） 15：30～17：00

場 所：福島県保健衛生合同庁舎 5 階 デイルーム

対 象：アディクション関連問題に携わるスタッフ等

参加者：46 名

内 容：情報提供として、カードゲーム型支援ツール Can・JOURNEY の紹介や、依存症治療者・依存症相談対応指導者・地域生活支援指導者養成研修の復命研修等が行われた。

③ 第 30 回東北アルコール関連問題学会青森大会への参加

日 時：令和元年 11 月 2 日（土） 9：30～17：00

場 所：青森県八戸市

参加者：234 名

内 容：アルコール・プロジェクトから 1 名が参加した。独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター院長の樋口進先生による記念講演のほか、埼玉県立精神医療センター副病院長の成瀬暢也先生による基調講演があった。

4. 課題と展望

本年度の活動は、昨年度と同様、支援者向けの節酒アプローチ法の普及・啓発を旨とした研修会を2回実施した。例年のように、肥前精神医療センターから福田先生をお招きし、大変好評のうちに2回の講演を終えることができた。今回はアドバンスコースを設けたが、まだ初心者の参加も多いため、このような継続研修的な試みをさらに充実させる工夫が必要である。

また、ふたばワールドをはじめとした、自治体等のイベントについては、参加者の評判もよく、今後も活動継続の必要性があると考えられる。さらに家族支援については、CRAFTの普及を中心として行っているが、これについてもニーズも高いため、可能な限り協力できればと考えている。